

学術とスポーツの真剣味の殿堂たれ

700<sup>th</sup>  
UMEMURA  
ベストMAX

# 中京大学スポーツ

Vol.26  
2023 5月号

フィギュア 世界選手権

りくりゅう 日本人ペア初優勝

宇野 日本人初連覇

競泳 世界選手権

中京大勢4選手が代表に



# フィギュアスケート世界選手権 中京大勢2冠 ペアりくりゅう組初優勝／男子シングル 宇野選手連覇



共同通信社  
世界選手権金メダルの三浦選手・木原選手



共同通信社  
演技終了後のりくりゅうペア



世界選手権連覇の宇野選手



山本選手

日本中が沸いた北京冬季五輪から1年余り、今年もまた冬季競技シーズンをフィギュアスケーターたちが沸かせた。なかでも注目はペア種目だった。今季を全勝で終えた三浦璃来選手（スポーツ科学部3年）、木原龍一選手（木下グループ、2014年度スポーツ科学部卒）はりくりゅうペアとして親しまれ、同じく中京大勢で男子シングル種目の宇野昌磨選手（トヨタ自動車）とともに日本中のファンを魅了した。

## りくりゅうペア 今季全勝で 主要国際大会3冠

りくりゅうペアの今季2022-23シーズンの活躍には目を見張るものがあった。昨季の北京五輪では、まず団体戦で銅メダル獲得に貢献。ペアでも7位に入賞した。表彰台ではなかったが、この種目で日本ペアの五輪入賞は史上初の快挙だった。この大舞台での活躍が飛躍のきっかけとなったのか、その約1か月後のフランス・モンペリエでの世界選手権では銀メダルを獲得。この年2月にロシアがウクライ

ナへの侵攻を開始し、国際スケート連盟（以下、ISU）がロシア勢の参加を除外しての大会ではあったが、ペア種目日本勢過去最高の成績を残した。

そうして迎えた23シーズン。強豪ロシア勢は依然として今季も不在ではあるが、グランプリ（以下、GP）シリーズは日本でのNHK杯を含む2戦を連勝、昨年12月のGPファイナルでも優勝した。さらに今年2月には四大陸選手権でも優勝し、連勝が続いた。

そして3月下旬に、さいたまスーパーアリーナで開かれた世界選手権。初日の

## ショートトラック競技では 2つの国際大会で大健闘

ショートトラックスピードスケート競技では2つの国際大会で計3選手が表彰台に上った。まず1月下旬にドイツ・ドレスデンで開かれたISU世界ジュニア選手権には、中京大から男子の林康生選手（スポーツ科学部2年）と女子の中島未莉選手（同）が出場。男子3000メートルリレーで林選手が日本チームの第1走として好スタートを切り、日本は見事、銀メダルを獲得。林選手は男子1500メートルでも5位に入賞した。なお、3000メートルリレーで第3走として好走した当時

中京大中京高3年だった夏目笑選手は、4月に中大に入学し、現在はスポーツ科学部に在籍している。1月中旬から下旬にアメリカ・レークプラシッドで行われたFISUワールドユニバーシティゲームズのショートトラック混合リレーでは、高橋花菜選手（スポーツ科学部3年）と中島選手が日本チームの一員として健闘し、銅メダルを獲得。さらに、フィギュアスケートの山本選手も日本代表として出場し、金メダリストとして表彰台の中央に立った。



中島選手



林選手

## 宇野選手の 世界選手権連覇は 日本男子初の快挙

男子シングルの宇野選手はSP、フリーともにトップの合計301.14点を獲得し、昨年に続いて世界選手権を制覇した。フリーの演技を全力で終え、最後のポーズの後、宇野選手は大字に倒れ込んだ。今季、さまざまな競技会で圧倒的な強さを見せた宇野選手も「ホットした」と声を震わせた。世界選手権の日本勢連覇達成は男子としては初めて。宇野選手は昨季、北京五輪で銅メダルを獲得した後、フランスでの世界選手権で初優勝を遂げていた。

また、この世界選手権には男子シングルの山本草太選手（スポーツ科学部4年）も日本代表として出場しており、15位だった。

## スキー競技部から 世界選手権に2人出場

2023 F I S フリースタイル&スノーボード世界選手権大会(以下、WSC)が2月19日〜3月5日、ジョージア・バクリアニで開かれ、中京大スキー競技部から藤井源選手(スポーツ科学部4年)、松浦透磨選手(スポーツ科学部3年)の2人が日本代表として出場した。

今季、9月に行われた F I S オーストラリアニュージーランドカップで準優勝するなど今大会でも上位進出を期待された藤井選手は、スキービッグエアで14位と上位10人による決勝には進めなかった。スロープスタイルは40位だった。また、WSC初出場の松浦選手は、ワールドカップ初戦で9位だったスキーハーフパイプで今大会も入賞を期待

されたが14位と決勝進出を逃した。今大会には、北京冬季五輪の男子フリースタイルスキー・モーグルで銅メダルを獲得した堀島行真選手(2020年度スポーツ科学部卒)や同大会スノーボードクロス日本代表の高原宜希選手(2019年度スポーツ科学部卒)なども出場した。



オーストラリアニュージーランドカップでの藤井選手(左)



松浦選手

共同通信社

## フィギュアスケートの 中京大オリンピックピアンが勢ぞろい アイスアリーナにウインドウグラフィック

わが国を代表する選手たちをはじめ、多くのフィギュアスケート競技の選手たちが練習拠点としてきた中京大豊田キャンパスアイスアリーナで同競技のウインドウグラフィックが公開された。

オリンピックなど世界の舞台で活躍の選手たちが滑りを重ねてきたアイスアリーナが「フィギュアスケートの聖地」として輝き続けることを目指し、梅村学園創立100周年記念事業のプロジェクトの一つとして行われたクラウドファンディングによって設置されたもので、世界中の人々に知られている選手ら10人が壁面を彩った。スケート部の林田健二郎長(スポーツ振興

部長)は「次に続く選手たちが、自分もここに仲間入りしたい」と思っ頑張ってくれればうれしい」と話した。



ウインドウグラフィック

## 7月の競泳世界選手権 中京大勢4選手が代表に 神野選手は現役生として8年ぶり出場へ

競泳の世界選手権代表選考会を兼ねた第99回日本選手権が4月上旬、東京アクアティクスセンターで開かれた。中京大勢は4選手が日本代表に選出され、7月に福岡県立総合プールで開かれる世界選手権2023福岡大会に出場する。

4選手のうち現役生として出場を決めたのは女子リレー種目に選ばれた神野ゆめ選手(スポーツ科学部3年)1人で、現役生としては2015年大会に男子バタフライ種目で川本武史選手(トヨタ自動車、2016年度スポーツ科学部卒)が出場して以来、8年ぶりの快挙だ。川本選手は今回も代表に入った。

神野選手は日本選手権に50、100メートル自由形と100メートルバタフライで出場。100メートル自由形で54秒93を記録し、4位入賞を果たした。50メートル自由形と100メートルバタフライ

はB決勝進出に止まったが、100メートルバタフライは59秒47で自己ベストを更新した。

神野選手は「100メートル自由形決勝では、リレー種目代表への4番は絶対に譲りたくない思いで最後まで懸命でした」と日本選手権を振り返った。会場には両親と姉が応援に訪れ「喜んでもらえた」と笑顔を見せた。「世界選手権のリレーでは53秒台で繋いでチームに貢献したい」と早くも福岡大会本番への思いを口にした。

水泳部の藤谷光順コーチは「400メートルリレーはこの大会で12番以内に入れば2024パリ五輪の出場権獲得となります」と期待を込めた。また、本番では混合リレーなど追加で他種目に出場する可能性もある。

神野選手以外の中京大勢3選手は、前出の川本選手と女子バタフライの相馬あい



神野選手(左)と藤谷コーチ

選手(ミキハウス、2019年度スポーツ科学部卒)、女子背泳ぎの高橋美紀選手(林テレンプ、2017年度スポーツ科学部卒)でいずれも入賞が期待される。

また、日本選手権は世界選手権以外に F I S U ウールドユニバーシテイゲームズの選考も兼ねており、男子背泳ぎの西小野皓大選手(スポーツ科学部2年)と女子バタフライの廣下菜月選手(スポーツ科学部3年)が、8月に中国・成都で開かれる大会の日本代表に選ばれた。

## 「ベストを尽くす」安定感抜群の戦いぶり 愛知大学野球春季リーグ 4月は6連勝

愛知大学野球春季リーグ戦はまだ最終週を終えていないが、硬式野球部の今季の戦いぶりは見事だ。4月8日に開幕し、第1週は愛知東邦大に、続く第2週は愛知工業大に、第4週では愛知大に対し、いずれも連勝で勝ち点3を挙げた。

各初戦に先発した磯貝和賢投手(スポーツ科学部4年)の150キロを超えるストリートを中心とした安定的な投球と救援の高木快大投手(同2年)とのリレーは勝ちパターンをつた。

先制を許した愛工大戦でも選手たちに焦りはない。チーム全体に漂う安定感。経験豊富な4年生が多いですが「ね」と半田監督。さらには今年に学園創立100周年。「建学の精神の四大綱を意識した」と振り返る。杉浦勇介主将(スポーツ科学部4年)も

「冬からやるべきことをしっかりとやりやろう。どんな状況でもそれに集中しよう」と。焦ることもバタバタすることもありません」と話す。優勝すると6月の全日本大学野球選手権大会に出場が決まる。



安定した投球を見せる磯貝投手



本塁打を放ち喜びを見せる杉浦主将

2022年夏にスタートした、産学連携によるプロジェクト「CHUKYO 6 SPORTS」。梅村学園創立100周年を契機として、中京大学スポーツの目指す「競技力向上と社会貢献活動」をより一層推進していくために創設され、中京大が強化スポーツに指定している6競技（硬式野球・サッカー・陸上競技・水泳・アメリカンフットボール・スケート）を横断的に、複数企業がサポートするプロジェクトである。

名鉄観光が主催する「Meitetsu Second School」では親子で滑ろうスケート教室をはじめ4つの教室を実施。スケート教室ではスケート部員が講師役を務め、教室の前半は、壁に捕まりながら立つことで一杯だった参加者も最後には1人で滑れるようになり、参



スケート部員による滑り方の指導



アイスアリーナで開かれたスケート教室

加した親子からは「貴重な経験ができてよかった」などの声が寄せられた。その他、強化スポーツ6競技の部員とパートナー企業の社員との交流など様々な取り組みを行った。

パートナー企業

- 東海東京フィナンシャル・ホールディングス
- 東海東京FH
- F&Cホールディングス
- FUJIMAKI GROUP
- 不動産SHOPナカジツ
- ナカジツ
- コプロ・ホールディングス
- copro
- ミスノ
- ミズノ
- ダートフィッシュ・ジャパン
- DARTFISH
- 名鉄観光サービス
- 名鉄観光

一般社団法人大学スポーツ協会（通称：UNIVAS）が主催するUNIVAS AWARDS 2022-23で、「産学連携によるスポーツ強化」CHUKYO 6 SPORTSが、「スポーツ統括部局/SA賞」優秀賞を受賞した。

UNIVAS AWARDSは、学生アスリートの一年間の活躍を称え、競技成績だけでなく、学業充実や安全安心、大学スポーツの盛り上げなどに著しい成果をあげた人や団体に贈られる表彰制度である。

「スポーツ統括部局/SA賞」は、大学スポーツ振興に関する先進的取り組み事例を表彰しており、中京大は4年連続で優秀賞（昨年度は最優秀賞）を受賞している。



UNIVAS理事の梅村学長をはじめとした本学関係者



UNIVAS AWARDS表彰式

ウエイトリフティング部男女2選手  
全日本学生新人選手権優勝  
男子61kg級柳選手 女子59kg級後藤選手

ウエイトリフティングの2022年度全日本学生新人選手権大会が3月9〜12日、埼玉県上尾市のスポーツ総合センターで開かれ、男子61kg級で柳奏良選手（スポーツ科学部2年）が、女子59kg級で後藤優妃乃選手（同）が優勝した。

柳選手は愛工大名電高出身。陸上競技の円盤投げの選手だったが、ウエイトリフティングの際に勧められ2年の半ばからウエイトリフティング部に入った。「自分の成長を数字で実感できるのが魅力、動きはシンプルに見えるが、無限に自分の改善点が見えてきます」と話す。今年度の目標を問いかけると「インカレで優勝を目指したいです」と声を弾ませた。

後藤選手は須磨友が丘高（兵庫県）出身。ウエイトリフティングの名門校で競技に出会い、どんどん自己



後藤選手(左)と柳選手

ストを伸ばした。しかし、けがもあり3年のインターハイ後に競技を離れた。「でも大学でのスポーツ研究がずっと私の目標でした」。そこで受験した中京大に晴れて合格。部の見学を勧められ「来てみると雰囲気がとても良くて」。ウエイトリフティング競技との再会となった。

ウエイトリフティング部の加藤正雄監督は両選手について「二人とも伸び代がまだまだあります」と競技への期待感を述べた。



ウエイトトレーニングに励む福永選手(左)と陸上競技部の川端プレイングコーチ

2024パリパラリンピックを目指す  
2選手 チャレンジの1年

2024年パリ五輪、パラリンピックがあと1年余りに近づいてきた。そのパリパラへのチャレンジに取り組んでいる競技者が豊田キャンパスにいる。陸上競技の福永凌太選手（スポーツ振興部職員、2020年度スポーツ科学部卒）と競泳の石原万鈴選手（スポーツ科学部3年）だ。チャレンジに声援を送りたい。

福永凌太選手 陸上競技トラック400m

福永選手は短距離種目や走り幅跳びを得意としており、パリパラでは400mでの出場を目指す。陸上競技部の現役生当時は十種競技などに取り組んだが、時間の経過とともに視力が落ちる錐体ジストロフィーによる視覚障害があり、障害の程度が徐々に高まってきた。

昨年11月に陸上競技部のコーチにも就任し「自らの練習に加え、食事や睡眠の大切さ、

情報収集などにも力を入れるようになりました」と話す。4月初めの梅村陸上競技会で400mは49秒08、1000mは11秒02と自己ベストを更新。400mは自己ベストに届かなかったが「この時期としては手応えを感じました。48秒前半は大丈夫。今年中に47秒台に届きたい」と目標を語った。クラスはT13。指導を続けてきた青戸慎司陸上競技部副部長は「パリでは十分にメダルを狙えます」と太鼓判を押す。この週間後の競技大会で1000mは10秒89まで伸ばし、自らの言葉通り、4月29日にパリ日本選手権400mで48秒34のアジア新記録を樹立した。

石原万鈴選手  
競泳100m自由形

石原選手は競泳100m自由形での出場を目指す。先天的に右ひじから先がなく、クラス分けはS9だ。

幼少時に水泳を始め、中京大中京高でのベストタイムは1年時の50mは33秒39、100mは1分14秒57。中京大に進学後の水泳部では、昨年9月のジャパンパラリンピックの50m自由形で33秒33と自己ベストを更新。「練習により集中するため大学近くの下宿した影響もあり、11月の日本選手権で50mは33秒05、100mは1分13秒10と記録をさらに更新した。「キックが遅いし、弱い。まずここを改造したい」とパリパラ選考会に向け、力を込めた。



石原選手

## スペシャルオリンピックス日本・愛知から 感謝状が贈呈されました

名古屋キャンパス1号館と豊田キャンパス6号館にスペシャルオリンピックス日本支援自販機を設置したことを受け、11月7日、公益財団法人スペシャルオリンピックス日本・愛知(以下、SON愛知)から感謝状が贈呈され、2018年スペシャルオリンピックス日本愛知大会のメダルも寄贈された。



(写真左から)SON愛知・鈴木事務局長、SON愛知・酒井理事長、梅村学長、SON愛知・梅田財務担当、林田学長補佐(スポーツ振興担当)

SON愛知酒井俊皓理事長は「スペシャルオリンピックスの活動は、欧米に比べ日本ではまだ認知度が低いのが現状です。これからより一層、認知度向上と参加者の幅を広めたいです」と語った。



感謝状を贈呈するSON愛知酒井理事長と梅村学長

中京大梅村清英学長は「スペシャルオリンピックスのイベントには中京大の学生がボランティアとして参加しています。今後も一緒に広く活動していきたいです」と述べた。

今回設置した自販機の売り上げの一部は、知的障害のある人たちに日常的なスポーツトレーニングと、成果発表の場である競技会を提供する「スペシャルオリンピックス日本・愛知」の活動に寄付されている。

## スペシャルオリンピックス日本選手団 事前合宿で交流

ドイツ・ベルリンで開催されるスペシャルオリンピックス夏季世界大会(2023年6月13〜25日)に派遣される日本選手団は3月18、19日、トヨタスポーツセンターで事前合宿を行った。

19日にはスペシャルオリンピックス日本(以下、SON)サッカーチームと中京大サッカー部の合同練習が行われた。



SONチームから記念品をもらう中京大サッカー部  
©Special Olympics Nippon

また、中京大サッカー部とSONチームをミックスしてのユニファイドサッカーゲームを行い、最後に中京大サッカー部対SONチームで試合を行った。



全員での記念撮影

※ユニファイドスポーツとは、知的障害のある人(アスリート)と知的障害のない人(パートナー)がチームメイトとなり一緒にスポーツをするSON独自の取り組みです。

同日午後に行われたトヨタスポーツセンター見学ツアーには、トヨタ自動車の社員約20人に加え、中京大の学生2人が参加し、ベルリンでの世界大会の概要や、今大会の選手団、ユニファイドスポーツについて学んだ。その後、日本選手団が練習している様子を見学し、選手らを応援した。

同日午後に行われたトヨタスポーツセンター見学ツアーには、トヨタ自動車の社員約20人に加え、中京大の学生2人が参加し、ベルリンでの世界大会の概要や、今大会の選手団、ユニファイドスポーツについて学んだ。その後、日本選手団が練習している様子を見学し、選手らを応援した。

## イーグルス スポーツスクール 今年度も開講!

子どもたちと高齢者を対象に、スポーツとの出会いや体力の向上を目的としたスポーツ教室「豊田市×中京大イーグルススポーツスクール」が2023年度もスタートする。今年度新たに開講する「スクエアステップ教室」から始まり、水泳、スケート、陸上競技などの教室が開かれる。

春季	スクエアステップ教室		マスターズ水泳教室 (金曜日クラス)
夏季	水泳教室	スケート教室	
秋季	かけっこ教室	ノルディックウォーキング教室	
冬季	親子ダンス・キッズダンス教室	楽しんで体の使い方を覚える運動教室	
	野球教室	サッカー教室	

※教室名や開催時期は変更の可能性あり  
情報公開:中京大スポーツHP <https://chukyo-sports.com/sports-school>

## UNIVAS『ユニ散歩』 中京大学豊田キャンパスの スポーツ施設などを紹介

UNIVAS(大学スポーツ協会)公式YouTubeの人気企画『ユニ散歩』で、中京大が紹介された。同企画は、学生団体UNIVAS STUDENT LOUNGE(以下、U・S・L)のメンバーが、大学スポーツ協会に加盟する大学内を実際に「散歩」して大学の魅力を発掘する内容である。第3弾として中京大が取り上げられ、豊田キャンパス内を散歩し、スポーツを通じた大学の魅力を伝えた。



(左)学生レポーターとして撮影に参加した大坪さん



ユニ散歩 vol.3中京大学 (UNIVAS「大学スポーツ協会」YouTubeチャンネル)



前編はこちら

後編はこちら

今回U・S・Lと一緒にキャンパス内を「散歩」した学生レポーターは、体育会幹事長の大坪実桜さん(スポーツ科学部3年)。

前半は豊田キャンパスの充実したスポーツ施設やスポーツミュージアムなどを巡り、後半は昨年11月に開催された「中京大学子どもスポーツフェスタ」が紹介され、大学スポーツの魅力や地域・産学連携の取り組みについて本学スポーツ振興部担当者がコメントした。

## 今年度の企画第1弾は「スペシャルオリンピックス」 中京大学スポーツミュージアム第2弾にも注目を

中京大学スポーツミュージアムの今年度の企画第1弾として「スペシャルオリンピックス(Bewithall)だれもが活躍する社会の実現へ」が開かれている。

中京大は昨年5月、教育やスポーツの分野を通じ、多様な人々の共生社会の実現

を目指そうと、東海地区の大学で初めて、スペシャルオリンピックス日本(以下、SON)と包括連携協定を結んだ。締結式で梅村清英学長は「日本の私立大学では初めて体育・スポーツ科学の博士課程を設置した研究拠点として、これまでのノウハウを新しい形で生かしていきたい」とあいさつした。

包括連携協定締結式に出席し、今年度第1弾のこの展示を企画した来田享子スポーツ科学部教授は「包括連



スペシャルオリンピックス企画展



渡辺すみ子さんの展示

携協定締結を契機にSONとの共催で実現しました」と言い、「身体文化の多様な価値を追求するスポーツミュージアムの空間からSONの活動を支える強い思いが、来館者の皆さまを通じて世界に広がっていくことを願っています」と笑顔を見せた。

来田教授の専門はオリンピック・ムーブメント史、スポーツとジェンダー研究で、日本スポーツとジェンダー学会会長も務めている。そして今年度第2弾の展示として、女子陸上競技選手の渡辺すみ子さんの企画準備を進めている。1932年のロサンゼルスオリンピック陸上競技に15歳で出場。昭和一ケタの時代にスポーツに真っ向から取り組んだ女性である。後に梅村学園第2代校主・梅村清明先生と結婚し、梅村すみ子先生として活躍したあの人である。お楽しみに。

## 10団体と個人56人総勢268人が受賞 2022年度体育会功労賞授賞式



体育会功労賞特別賞を受賞した陸上競技部の石垣綾香さん(スポーツ科学部4年)

2022年度の体育会活動で功績のあった団体や個人を表彰する体育会功労賞授賞式が3月14日、豊田キャンパスで行われた。受賞したのは、日本学生水泳選手権で11年ぶり2度目の優勝を果たした水泳部女子など10団体と個人56人で、受賞対象者は総勢268人だった。

2022年度は関係者約140人が出席し、高橋繁浩体育会長(スポーツ科学部教授)から表彰状が贈られるたびに、会場には何度も拍手の輪が広がった。

あいさつで高橋会長は、受賞者に対して祝福の言葉を述べ、「2023年度もまた、今年度以上の活躍で中京大学の名を高めていただきたいです」と激励した。

競技だけでなく、学業でも優秀な成績を収めた選手には体育会長賞、体育会功労賞特別賞が贈られた。

## 今春卒業のハンドボール部前主将 東京2020五輪覇者・デンマークに留学へ

ハンドボール部の男子選手で、2022年度にスポーツ科学部を卒業した高橋亮人さんが今秋、ハンドボール競技の盛んなデンマークに留学する。イーカストという町にある学校で1年間、同国のホイスコレという留学制度を使ってハンドボールの研究に取り組む。

高橋さんは中京大入学後、1年の時に右膝の前十字靭帯を切る重傷を負った。「とても落ち込みましたが、競技を外側から客観的に見る機会となり、一からハンドボールを考えることができました」と振り返る。4年になり主将を任せられ、左サイドとしてプレーしたが、第線級選手とまではいかなかった。

ではなぜ、ハンドボールの研究にこだわるのか。「自分の得意なスポーツを通して自分の人生を豊かにしたいからです」。デンマーク留学を経験し



高橋さん

た同部OBからは「楽しいよ。自分のためになるし、必ず成長できる」と勧められた。両親の理解もあり、「周りの知人たちも背中を押してくれた」と感謝の笑顔を見せた。留学後の将来については「まずはプレーヤー。その姿を両親に見せたい」と答えた。

中京大中京高時代にフィギュアスケートで活躍した、河辺愛菜、松生理乃、横井きな結の3選手が4月4日に行われた入学式に出席した。式典後の取材で、河辺選手は「勉強を通して競技力を高め、トリプルアクセルを入れて納得のいく演技をしたい」、松生選手は「楽しかったと笑顔で終われる試合を毎回できるようにしたい」、横井選手は「コンスタントに良い成績を残し、全日本選手権でいい演技をしたい」と話した。3選手はスポーツ科学部に在籍し、スケート部で活動している。



(左から)河辺選手、松生選手、横井選手

## インターハイ女子総合優勝

### フィギュアスケート

第72回全国高等学校フィギュアスケート選手権大会が1月16〜17日に埼玉アイスアリーナで開催され、中京大中京高が女子団体で2年ぶり11回目の総合優勝を

飾った。個人では河辺愛菜選手が優勝、松生理乃選手が準優勝、吉田陽菜選手が4位に入賞した。男子では中村俊介選手が個人で準優勝し、団体においても準



(左から)松生選手、河辺選手、吉田選手、中村選手



優勝カップを受け取る河辺選手

優勝という結果を残した。この春、高校を卒業した河辺選手は高校時代の思い出として「最初に最後のインターハイで仲間と力を合わせて団体優勝を達成することができて嬉しかった」と語った。同じく高校を卒業した松生選手は、「高校3年間スポーツクラスの仲間に刺激をもらったことで競技に集中でき、充実した高校生活を過ごすことができた」と振り返った。

## 中京大中京高校 通信制課程が開設

中京大中京高校では、2023年4月1日に広域制通信制課程(以下、通信制)「Chukyo Academic Network」(通称CAN)を開設した。通信制はスポーツや文化芸術などで「特別に秀でた生徒」が学習と活動の両立を図り、夢に向かってチャレンジできるような支援する取り組みである。

6日に海外からのオンライン参加にも対応した入学式が行われ、フィギュアスケート、ロードバイク、クラシックバレエ、ゴルフと様々な競技で活躍する第1期生7名が伊

藤正男校長より入学を許可された。新入生代表としてフィギュアスケートの櫛田育良選手が登場し、「ここにいる新入生の競技は様々ですが、同じ志を持った仲間です。【自分ができる】と強い気持ちで自らを奮い立たせ、練習や勉強を頑張ります」と力強く宣誓を行った。

式典後には櫛田選手の取材が行われ「京都を拠点にフィギュアスケートと勉強を両立し、世界で活躍できるように頑張りたい」と意気込みを語った。



櫛田選手

# 真を、ゆく。

あなたの「真」。

それは、タフに、しなやかに、ゆく道を照らし、  
夢に向かう原動力となる。

未来を動かす「真剣味」の精神とともに、

梅村学園 100周年。

心の真ん中にある個性を

大輪のごとく咲かせ、


信じる道の、真をゆけ。




中京大学 在学生 / 中京大学附属中京高等学校 在校生

100<sup>th</sup>  
UMEMURA  
ベストMAX

学校法人 梅村学園  
創立100周年

 学校法人 梅村学園

 中京大学

100周年記念サイト

 中京大学附属  
中京高等学校



[2023年4月通信制課程 開設]

 中京大学  
CHUKYO UNIVERSITY

発行 / 中京大学  
〒466-8666 名古屋市昭和区八事本町101-2  
【広報課】 TEL 052-835-7135  
【スポーツ振興部】 TEL 0565-46-6935

 ミックス  
責任ある木質資源を  
使用した紙  
FSC® C019709